

前例を超えて創造する流儀Ⅱ

～人をつなぐ・地域をつなぐ・そして変わる～

介護を楽しく乗り切る極意

～「世界のヘルパーさんと出会う旅」～



共に介護を学びあい・励まし合いネットワーク

藤原 るか ホームヘルパー1級・介護福祉士

<自己紹介>

ヘルパーの仕事に魅せられた！

暮らしの一つ一つに「本人の積み重ねられた体感記憶」

生活の中にある文化、無防備な命の営み

生き抜こうと日々、どう生きるか？どう暮らすか？

人間と社会を考えるきっかけを「ヘルパー」という

職能が教えてくれた。

今日は皆さんに現場から現状を紹介し、

介護を乗り切る極意を一緒に考え合える90分にできたらと・・・



職能を社会的評価につなげたい！

～感じ取り・聞き取り・考え・(記録)発信する～

- ① 研究活動 ・「生活援助」の有効性
⇒認知症状への対応(特に初期～中期)
- ② 1日500円を貯めて
「世界のヘルパーさんと出会う旅」
- ③ 厚生労働省・マスコミ等へヘルパーの仕事の発信
- ④ 相談活動
- ⑤ 職能のネットワークを広げる



直接・定期的に訪ねて来る。大切にしたいシステム①

ホームヘルパーを知っていますか？

～自分だけのための訪問～ 1対1

東京・青梅では木材を運ぶトラックにヘルパーが乗って、
訪問している。(TV放映を入れたいが・・・)

大雪の時、「相手の方を驚かせてはいけない」と
自衛隊の前に立つヘルパーを想像して～

カッコいいですよ～♪

現在の平均年齢は・・・



お互いに嫌な相手だったら・・・

～逃げ場がない！在宅～

(セクハラ・パワハラ＝犯罪)

労働環境を整える事が課題⇒8割が直行・直帰
パート・登録型ヘルパー

両手を広げて入室を拒否する元ドクター

プライバシーを守る環境が当たり前。

⇒守秘義務



直接・定期的に訪ねて来る。大切にしたいシステム②

ホームヘルパーを知っていますか？

～0歳の赤ちゃんから

100歳を超えた方へ訪問～

- ・難病を持った赤ちゃんへの訪問 (13トリトミー)
- ・ひとり親家庭への訪問
- ・精神障害を持った青年への訪問
- ・100歳を超えた方への訪問 (入浴介助)



自分の家で住み続けたい！

時間・空間・生活文化等「自由」な在宅

⇒自己判断の連続の場所（生活文化）

施設との違いは？

⇒どんな生活を過ごしてきたのか？

生活の多様性・個別性（自己肯定感情）



介護の入り口は「生活援助」

体に直接、触れるのは徐々にではなのか？

掃除・洗濯・調理・買い物等、15分単位のプラン

＜例えば 掃除＞

掃除をする人？しない人？

道具や方法 「ルンバ」や「コロコロ」

良くある雑巾話、洗う場所⇒もったいない！



本人の望む生活とは？

- 「戸惑い」と「驚き」の誘発

パツパツと片ずけてくれて大助かり

実は・・・

電話での一言

「チャ、チャと片ずけて行ってくれるのはありがた

いんだけど・・・自分が出来なくなってしまう

たような寂しい気持ちになるのよ～」と



グループワーク①

ホームヘルパーと家政婦の違い



ホームヘルパーと家政婦の違い

①仕事の方向性の違い

⇒家事の手間から解放（家政婦さん）

⇒「自分らしく生き抜く」サポート 尊厳や自立
生活の質

②訪問時間の違い

③法的根拠の違い

配布資料Ⅰ 「できる事、できない事」一覧



訪問先の8割

認知症状からの学び

忘れて居るのではないかと・・・と

感じることの「恐怖心への理解」

自分を表現する言葉さえも忘れてしまう

本人が歩んできた人生が、ご本人の固有な体感記憶によって成り立っているのではないかと（仮説）



グループワーク②

新聞紙を五感で体感する

自分らしさ ⇒ 「生活」の積み重ね 五感という体感
記憶を意識する。⇒「生活の厚み」

ある日の朝の訪問での出来事

松さん 92歳。元軍人。軽い認知症状がある

一人暮らし。息子さんは千葉に住んでいる。

玄関に下着姿でへたり込んでいた。

「新聞が届いていない・・・」

「新聞」は暮らしの継続に 何を届けているのか？

新聞の役割を五感から考えてみる

⇒情報を届ける (視覚)

⇒ (触覚)

⇒ (嗅覚)

⇒ (聴覚)

⇒ (味覚)

グループワーク③ 「自分らしさ」から考える

- ① 歯磨き粉の付いた歯ブラシを櫛に →
- ② お箸を持つとペンに →
- ③ ワイシャツに着替える男性 →
- ④ 茶ずつにお湯をいれる女性 →



世界にヘルパーは居るのか？



20年に1度の国際会議

- 1982年 ウィーンで開催
第1回国連「高齢者問題会議」
 - 2002年 マドリード開催
第2回国連「高齢者問題会議」
1999年国連で採択された
「高齢化憲章」を実行力のある物に
してゆくために開催された。
- テーマ “高齢期は人類の勝利
全ての世代の人の為の社会 “



共通の問いは3項目

- ① ヘルパーになった動機と
現在の気持ち
- ② ケア実践で楽しい事・辛い事
- ③ 労働環境や社会的評価

南半球オーストラリアへ シドニー・メルボルン (2003年)



在宅等の基準を考えた シドニー・メルボルンへの旅

～中福祉・中負担と云われている国～

- ① スキルの基準
→アイロンをしっかりと掛けられるようになる事！
イギリス領だった文化。
ティータイム10時と15時に30分の休憩
- ② 在宅の基準
→週に3回以上ホームヘルプが必要な方は施設へ
- ③ 5 6 か国語通訳の保障



イギリス・リーズ市(2010年) ストライキがどうして打てたのか？

- 二人一組の訪問
- 2週間単位の仕事
 - 第1週目 4日勤務
 - 第2週目 3日勤務
- バケーションは1ヶ月。
 - 他にクリスマス休暇等
- 医療的ケアは今後の課題
- 黄色は安心の色
- 犯罪履歴のある人はなれない。



どんなに良いことをしても 地球の裏側には伝わらない！



世界初 認知症サミットG8(2013年)



ソーシャルワークの先進国

- ① 医療費が無料
- ② 認知症状をお持ちの方への専門職のサポート
(＊資格として認知症アドバイザーは大学で心理学部や法学部等
専門科目を履修する)

認知症アドバイザーは当事者と家族に別々の担当者が派遣される。

(日本の場合は、専門教育のないケアマネージャーが一人で悪戦苦闘)

「私たちの仕事は『周りが変わる事』を伝えに行く事」

- ③ ボランティアもプロ・セミプロが研修を受けて対応。
認知症サポーターが運営を担当
- ④ 100カ国語をカバーしているとの事



塩の違いを知った旅



現場主義の政策決定・変更

- ① 家族介護者に資格を取って貰い、事業所に登録を義務づける。→介護による孤立を防ぐ。
韓国のヘルパーさんの約8割が家族介護者
- ② 人にとって大切な「コミュニケーション」を情緒的ケアとして1時間保障
- ③ ソウル市で取り組まれている「感情労働条例」
「アルバイト条例」若者にベーシックインカム実施



「犬ちゃんもメンバーで～す♪」
生活援助はあった！ ドイツ (2007年)



オレンジカラーで懇談
オランダ・デルフト (2010年)



オランダは月額54万円保障！

- 10ランクの介護保障 介護10は月54万円の費用保障
- 認知症状のある方は介護4～6となる
- 安否確認の立ち寄りが認められている（10分単位）
- ・ ヘルパーさんのスキルUPは「（生活）全体をみられる事。視野は広くないといけない」
- ・ 同居人へのケアもOK



ベルギーでの聞き取り (2012年)



- ・ 赤ちゃんからお年寄りまでの派遣
→ヘルパー利用が定着している
→ヘルパーの専門性で料金の違いを事業所や国が説明している
- ・ フランス語・ドイツ語・オランダ語それぞれのヘルパーチームが有り派遣が保障されている。
- ・ 週1回のヘルパー会議



フランス・パリ(2014年) 日本と同じ国家資格のある国



カナダ・トロント (2015年)

「あなたの存在が彼らの人生を変えます！」

- 100%移民の仕事
- 医療との線引きがはっきりしたケア⇒転倒は救急車かNS対応
- ・ 厳しい労働環境（オンコール）だが、ステップアップの道が示されている。
- ・ 健康概念⇒スピリチャル



台湾 (2019年) 外国人介護労働者16万人の受け入れ国



これまでの訪問の成果

- ①世界にホームヘルパーが居る事がかった。
- ②労働環境についての比較が出来た。
- ③当事者への気持ちや、社会的評価について
同じ思いがある事がわかった。
- ④ほとんどの国がプロが実践する
「生活援助」がある事がわかった。
- ⑤医学との関係はこれからという国が多い
事がわかった



グループワーク④

必ず聞かれる 「長寿国の理由は何か？」



あなたも
500円玉をためて世界へ
ホームヘルパーを知って頂き
ありがとうございます

